

第1回京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会 会議録

- 1 会 議 名 第1回京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会
- 2 開催日時 令和8年8月24日（月）午後7時00分～午後9時00分
- 3 開催場所 京丹後市役所網野庁舎ら・ぽーと2階会議室
- 4 出席者
 - (1) 委 員
平松隆夫、梅田和男、吉岡敬恭、柴田隆行、山崎高雄、山口正彦、福島健智、
平正彦、田中智子、田茂井勇人、八隅孝治、小嶋俊、福島和彦、志水美咲、谷口輝、
野村明宏、大槻美穂子、奥野嘉郎、小石原正志、真柴好雄、吉野航平
欠席5人（藤田政巳、小松裕美子、吉岡高博、野村仁美、谷口隆亮）
 - (2) アドバイザー
欠席2人（大滝雄介、志摩幹一郎）
 - (3) 事務局
市長 中山泰
市長公室政策調整監 川口誠彦、網野市民局長 松本智子、同局 椋平哲朗
建設部長 中川正明、都市計画・建築住宅課長 井上浩一、同課 橋智子
都市・地域拠点整備推進室長 安田悦雄、同室 石井真澄、同室 楊川優太
 - (4) その他
京都府立丹後緑風高等学校 網野学舎 安味穂果、中村萌咲
- 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 委員委嘱
 - (3) 市長挨拶
 - (4) 委員長及び副委員長の選出
 - (5) 事務局からの説明
 - ア 事業の検討経過
 - イ 本協議会の進め方
 - (6) ワークショップ
 - ア 網野の現状把握
 - イ 跡地活用の目指す姿
 - ウ 発表・意見交換・まとめ
 - エ その他（今後の開催予定）
 - (7) 閉会
- 7 公開又は非公開の別 公開
- 8 傍聴者 4人
- 9 要旨（議事経緯）

開会

<事務局>

定刻となりましたので、ただ今から、第1回「京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会」を開会します。委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しい中、ご出席くださいまして、誠にありがとうございます。私は、本日議事に入りますまでの間、進行をさせていただきます、京丹後市建設部の中川でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、お配りしております資料の確認をさせていただきます。「次第」、「資料1：協議会委員名簿」、「資料2：協議会設置要綱」、「資料3：事務局説明資料」、「参考資料」として、これまでの基本構想及び基本計画での具体的な意見等を整理した資料を配布しております。配布資料の揃っていない方はいらっしゃいませんか。なお、跡地活用構想（提言）及び基本構想、基本計画の全文については、事前にファイリングしたものをお配りさせていただいておりますので、適宜ご参照いただければと存じます。

続きまして、本協議会の委員の委嘱でございます。本来であれば、お一人ずつ委嘱通知書を交付させていただくべきところですが、時間の関係もございますので、大変恐縮ですが席上配布に代えさせていただきますと存じますので、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、協議会を構成する委員の皆様方を順不同にてご紹介させていただきます。資料1をご覧ください。

～委員紹介～

続きまして京丹後市側の出席者を紹介いたします。

～事務局紹介～

続きまして会議の成立についてご報告申し上げます。

さて、本協議会につきましては、京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会設置要綱第6条第2項の規定により、協議会は委員定数の過半数が出席しなければ開会することができないと定められています。本日は、委員定数26人のうち、21人の委員の皆様にご出席をいただいておりますので、本協議会の開会の要件を満たしておりますことをご報告申し上げます。

それでは、開会の挨拶を京丹後市中山市長から申し上げます。

<市長>

皆様、こんばんは。

改めて、京丹後市長の中山でございます。一言ご挨拶申し上げます。

本日は、「網野まちなか再生・活性化協議会」の第1回会議の立ち上げにあたり、お声がけをさせていただきました。お忙しい中、またお疲れの中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

皆様におかれましては、日頃より網野町、そして京丹後市の発展と繁栄に向けて、それぞれの

立場から様々な形でご尽力いただいておりますことに対し、重ねて感謝申し上げます。

さて、本会議でございますが、その名の通り「網野のまちなか」の再生・活性化を、しっかりとやり遂げたいという思いの中で立ち上げたものでございます。

まず、網野庁舎の跡地を活用した整備のあり方についてですが、ここは網野の中心における大変重要な機能を持つ場所でございます。この整備の現状について少し振り返ってみますと、平成30年度に地域の中で検討チームを立ち上げていただき、その真摯なご検討を経て、令和元年に市役所に対してご提言を賜りました。

それをうけて市役所としても、検討体制を整えて議論を重ねてまいりました。その結果、令和3年度に基本構想を定めさせていただきました。関係者の皆様のこれまでのご尽力に、改めて心から感謝申し上げます。

そして現在は、令和5年度に策定したこの基本計画をしっかりと進めるため、民間と連携した運営を見据え、民間事業者から様々な課題などをお聞きする「サウンディング調査」を令和6年度に実施してまいりました。

一方で、町づくり全体の動きも進んでおります。山陰近畿自動車道の整備におきましては、いよいよ久美浜町までの全線ルートを具体的に決定していくという直前の段階を迎えております。それと並行して、網野町までのルート決定および事業化をしっかりと進めていただきたいと、京都府とともに強くお願いをしているところでございます。今年度（令和8年度）および令和9年度での事業決定を目指し、取り組みを加速している状況です。

これが実現いたしますと、市内各地域から網野までのネットワークが決まり、具体的なルートを前提とした町づくりを進められる時代に入っております。その際には、山陰近畿自動車道から流入する活力を全市に広くしっかりとひろげ、全市全体の活力向上につなげるような展望を描く必要があります。

総合計画や都市計画のマスタープランにおきましても、市内6町の「地域拠点」を定め、それを支える都市拠点とともに、それぞれの拠点においてどのような機能をどう展開していくのかを地域の皆様と議論しながら進めてまいりたいと考えております。

この夏以降、各地域拠点の住民の皆様から様々なお声を聞かせていただき、一緒に作り上げていく取り組みを進めていく予定です。

こうした町づくり全体の動きと重ね合わせながら、先ほど申し上げた「庁舎跡地」の整備についても、サウンディング調査でいただいた様々な課題を踏まえ、網野町の地域拠点における中心的な機能・起点の1つとなるよう、次のステップに進めていきたいと考えております。これまでの経過や課題を振り返りつつ、皆様の忌憚のないご意見を賜りながら、今後の地域拠点づくりを具体的に進めていきたいという思いから、本委員会をお願いした次第でございます。

委員の皆様におかれましては、それぞれの立場や思いから、ぜひ自由なご意見を聞かせていただければと存じます。

ご負担をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<事務局>

続きまして、次第の4「委員長及び副委員長の選出」に移らせていただきます。

協議会設置要綱第5条第2項の規定により、委員長及び副委員長は委員の互選により定めるとされております。委員の皆様、委員長の選出につきまして、どのようにさせていただいたらよろしいでしょうか。

<委員>

網野町区長連絡協議会会長の平松委員に委員長をお願いしたいと思います。

<事務局>

ありがとうございます。網野町区長連絡協議会の平松会長に委員長をお願いしたいと存じますが、皆様いかがでしょうか。

～異議なし～

<事務局>

それでは、委員長は平松様をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。続きまして副委員長に移らせていただきます。どのようにさせていただいたらよろしいでしょうか。

<委員長>

商工会副会長の山崎様を副委員長として推薦させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

～異議なし～

<事務局>

ありがとうございます。それでは、副委員長は山崎様をお願いしたいと存じます。山崎様、どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日の会議録については、平松委員長及び山崎副委員長にご確認・ご署名いただいたうえで、公開させていただきたいと思います。

それでは、早速となりますが、平松委員長からご挨拶をいただけたらと存じます。よろしくお願いいたします。

<委員長>

皆さんこんにちは。委員長の職を拝命いたしました平松でございます。本協議会が意義深いものとなり、より良い形でこの網野庁舎跡地の整備が図られるよう、委員の皆様のお力添えのもと議論が進められればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私自身、網野町区長連絡協議会の会長として、日頃から地域の皆様の声に触れる機会をいただいておりますが、この庁舎跡地がこれからどう活かされていくのか、地域としても大いに期待をしているところでございます。本日1回目の協議会は、これまで積み上げてきた基本理念・基本方針を土台としながら、網野地域全体のより良い未来のために必要なものは何なのか、そして、そのためにこの庁舎跡地をどのように活用していくべきかを地域の皆様と一緒に考えていくものと理解しております。地域にお住まいの方にも喜ばれ、また、この先何十年も愛される場所となりますよう、限られた回数、時間の中ではございますが、御出席の皆様からの忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

なお、構想の提言を出していただきましたが、令和元年ということなので、もうかれこれ8年、ということで、途中足踏みを踏んで、様々な形態を考えていった経緯もありますけれども、それらも本協議会の資料の中に盛り込んでもらったり、ワークショップの結果も入れてもらったりしていますので、皆さま方の意見と、今までに出していただいた意見、それからまた、これからこの協議会に関わっていただく皆さま方が、地域の皆さんと関わっている中で意見をもらってきてそれをまたここで意見を出していただくということで、一人一人がそういう役割の中でご協力いただけたらと思います。

少しでも網野の跡地が、活用できて、その場所に合ったものが、案として出されて、それを答申していただけるように努めたいと思いますので、皆様方のご協力、重ねてよろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

議事

<事務局>

平松委員長、ありがとうございます。ここで、中山市長は途中退席とさせていただきます。さて、ここからは、議事に入らせていただきますので、平松委員長に議長をお願いしたいと思います。平松委員長よろしくお願いいたします。

<委員長>

それでは、ここから議長を務めさせていただきます。

委員の皆様方には、議事のスムーズな進行にご協力いただきますようよろしくお願いします。なお、ご発言の際は、挙手いただき、議長指名の後にマイクでご発言いただきますようお願いいたします。お手元の次第に従いまして、進めさせていただきます。

では、次第5「事務局からの説明」及び次第6「ワークショップ」でございます。2つ続けて、事務局から説明及び進行をお願いします。

<事務局>

本日はお集まりいただき、ありがとうございます。それでは、ここから全体のファシリテーションをさせていただきます、事務局の楊川です。これから協議会で活発な議論がいただけるよう頑張っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。各テーブルに職員が2人ずつ入って

おりますので、テーブルの職員に不明点があればお聞きもいただければと思います。

本日の流れは、大きく3つでございます。1つ目に、これまでの検討経過、2つ目に、この協議会全体の進め方、そして3つ目に、本日のワークショップ、テーマである「キーコンセプト」について、皆様とワークショップ形式で議論ができればと考えております。後ほどキーコンセプトとはなんぞや含めお話をさせていただきます。それでは、まず検討の経過からはらせていただきます。

～資料3に基づき事務局から説明～

<事務局>

ここまでの説明について、質問はございますでしょうか。

～質問なし～

<事務局>

それではここからワークショップに入らせていただきます。

～資料3に基づきワークショップを実施（会議意見は別紙）～

<事務局>

本日は誠にありがとうございました。それでは委員長にお返しします。

<委員長>

ありがとうございました。まだまだ、ご意見等多々あろうかと存じますが、時間の関係もありますので、本日はこの程度にさせていただき、次回以降、また積極的なご意見をいただきたいと思います。それでは、進行を事務局にお返しします。

<事務局>

平松委員長ありがとうございました。次回の日程につきまして、9月11日（金曜日）19時からの開催を予定しております。正式には改めてご案内させていただきますが、ご予約いただきますようお願いいたします。

それでは最後に、山崎副委員長からご挨拶をいただきたいと存じます。

<副委員長>

皆様、本日は遅くまで本当にお疲れ様でした。

第1回の協議会ということで、率直に申し上げて、皆様もどのように発言すべきか手探りの状態だったかと思いますが、途中から非常に活発なご意見が出てきて、大変よかったのではないかと考えております。

最後に皆様の発表を少し聞かせていただきながら、20数年前に行った視察のことを思い出しておりました。島根県の隠岐島の役場に行かせていただいた際、フェリーを降りた瞬間に、大きなポスターに真っ白な背景に黒字で「無いものは無い」と書かれておりました。それがその町のコンセプト、いわゆるキーコンセプトであります。

そこには、「何でもあるよ」という意味の「無いものは無い」と、「無いものは無いんだ」という、ある意味で腹をくくったような、2つの意味が込められておりました。そこから、まさに破綻しかけていた町の自立と挑戦が始まったとお聞きいたしました。

職員の給料をかなり減額しなければならないという状況の中で、年配の方々が「自分たちがもらっている手当を返還しに行く。あなたたち大変だから、私たちがこんなものをもらっているは駄目だ」とおっしゃり、寄付から始まったとお聞きしました。その後、小泉総理大臣がその取り組みを取り上げられ、非常に活発に回復していった様子を国会で話されていたのを覚えております。

そのキーコンセプトがあってこそ、高校が復活したり、企業はどんどん減っていたものの再び戻ってくるようになったり、移住の方が増えたり、全国から高校生が留学に来るようになったりと、現在では随分と様子が変わったとお聞きしております。

本日のこのような議論から、網野の未来もまたそのように広がっていけばよいなと少し感じております。第2回を9月11日に実施を予定しておりますので、引き続き皆様方におかれましてはご協力をよろしくお願い申し上げます。また、活発なご意見と、そしてこの町の未来を考えていただければと思います。本日は本当にありがとうございました。

<事務局>

山崎副委員長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第1回京丹後市網野まちなか再生・活性化協議会を閉会させていただきます。本日は、ありがとうございました。

(1) A グループ

WORKSHEET ①

ワークシート：網野の現状把握

【A グループ】

+ 魅力

- 祭りがあふ
- 昔の行事の伝承
- 密集した家々
- 四季が美しい
- 四季が美しい
- 自然海
- 砂浜
- 朝陽夕陽
- 人
- 時間がある
- 3ヶ月の滞在

- 課題

! 興味

- ゴミの資源化
- スポーツ

WORKSHEET ①

ワークシート：網野の現状把握

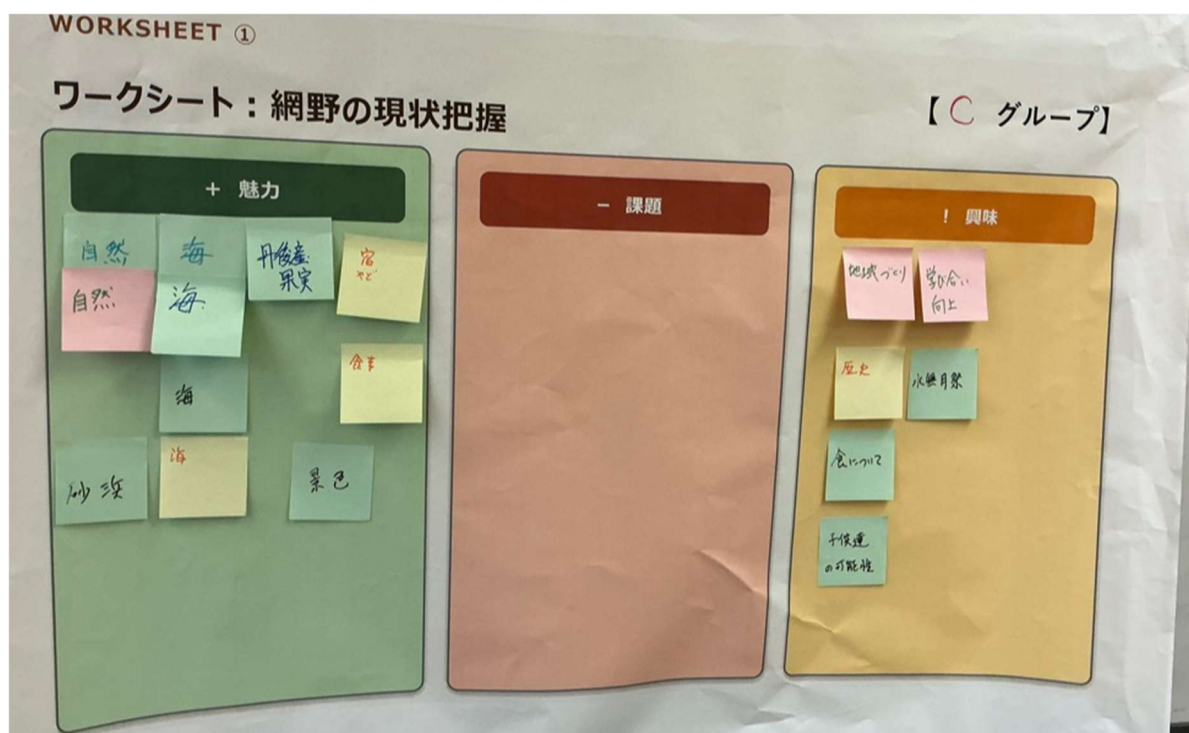
【Bグループ】

The worksheet consists of three vertical panels, each with a header bar and several sticky notes.

- + 魅力 (Strengths):** The top panel has a dark green header. It contains numerous sticky notes with handwritten Japanese text, including "海" (Sea), "山" (Mountain), "漁場" (Fishing ground), "歴史" (History), "釣り" (Fishing), "温泉" (Hot spring), "伝統産業" (Traditional industry), "自然" (Nature), and "各地の人々" (People from various places).
- 課題 (Weaknesses):** The middle panel has a brown header and is currently empty.
- ! 興味 (Interests):** The bottom panel has an orange header. It contains sticky notes with handwritten Japanese text, including "災害対策" (Disaster countermeasures), "ゴルフ" (Golf), "スキー" (Skiing), "スノーボード" (Snowboarding), "盆踊り" (Bonodori), "伝統文化" (Traditional culture), and "音楽イベント" (Music event).

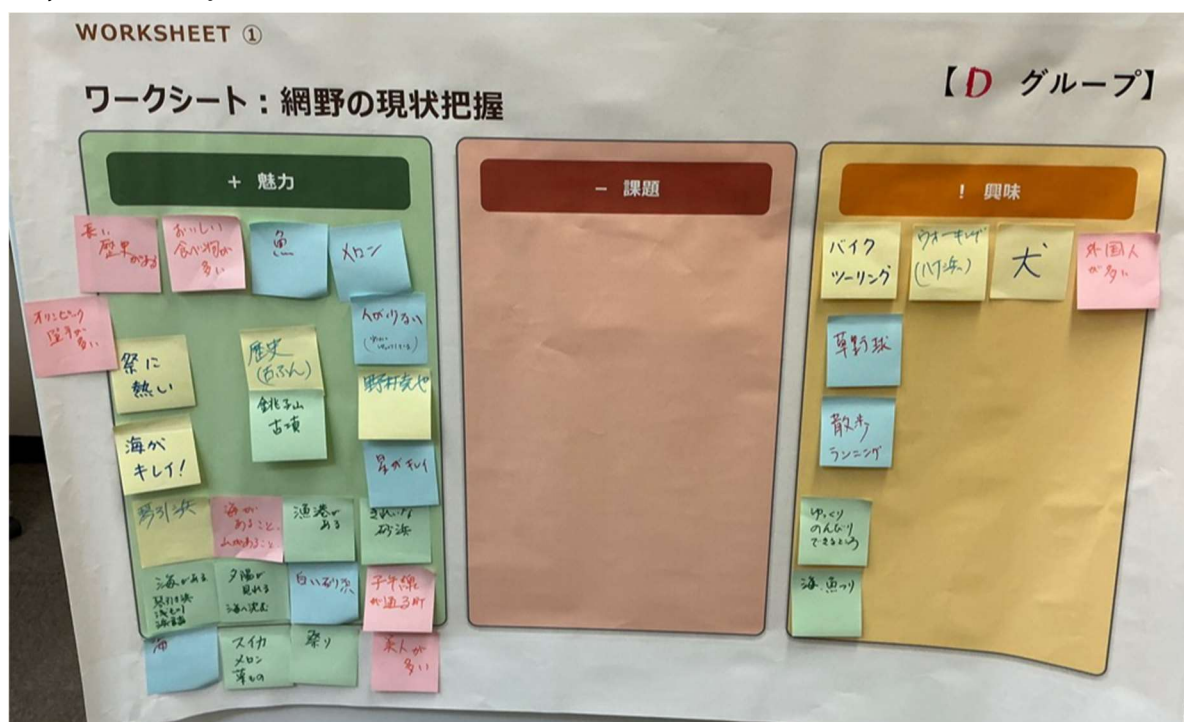
(3) Cグループ

【要旨】「自然」「海」「宿」等、自然・食に関する魅力が冴がり、興味では「地域づくり」「学び合い」「子供達の可能性」等、まちづくりへの関心が冴がりました。



(4) Dグループ

【要旨】「長い歴史」「おいしい食べ物」「海がキレイ」「琴引浜」等、自然・食・歴史の魅力が挙げられ、興味では「バイクツーリング」「ウォーキング」「散歩・ランニング」等、アウトドア系が中心に挙げられました。



(1) A グループ

WORKSHEET ②

ワークシート：本プロジェクトで対応できそうな課題

【A グループ】

課題の分類	
+世代の 需要がある 1階層の 衰退	人口減少 高齢化 若者が少ない
テニス コート	遊具
交通	
学生が 行ける場所 が少ない	図書館 の利用時間 が短い
冬 イベント	雨や 晴、曇り やうき、 曇り

対応策
フォロー つかえる 情報 伝達 町内会の 連絡
町内会の 連絡 町内会の 連絡
町内会の 連絡 町内会の 連絡 町内会の 連絡
町内会の 連絡 町内会の 連絡

本プロジェクトで対応できそうなこと
コミュニ ティ コミュニ ティ

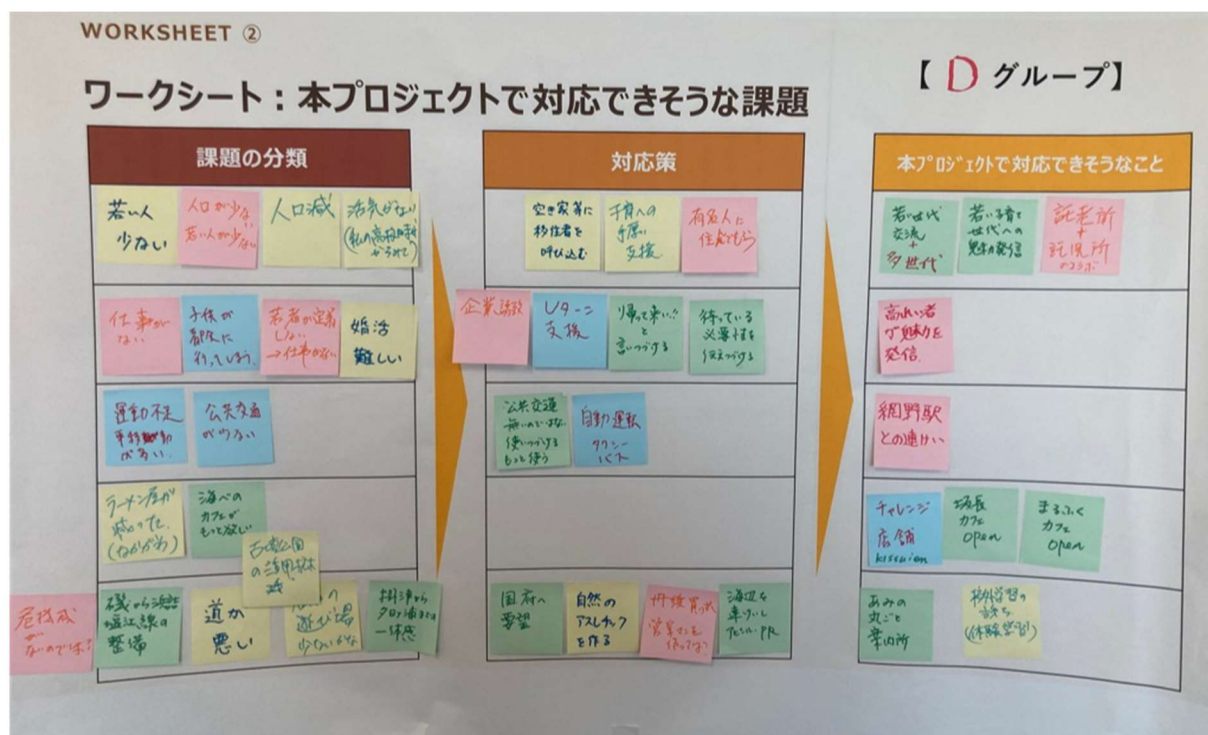
(2) B グループ

[illegible]

【要旨】「少子高齢化」「産業の減少」「学びの場が少ない」「駐車場問題」等を分類し、対応できそうなこととして「コワーキングスペース」「チャレンジショップ」「アンテナショップ」が挙げられました。



【要旨】「若者が少ない」「人口減」「仕事がない」「公共交通がない」等が挙がり、対応できそうなこととして「若者世代・多世代交流」「チャレンジ店舗」等が挙がりました。



3 ワーク③「跡地活用で目指す姿（キーコンセプトの検討）」

10 年～20 年後の未来に網野がどうあってほしいか、そのために跡地をどんな姿を目指して整備をしていくか

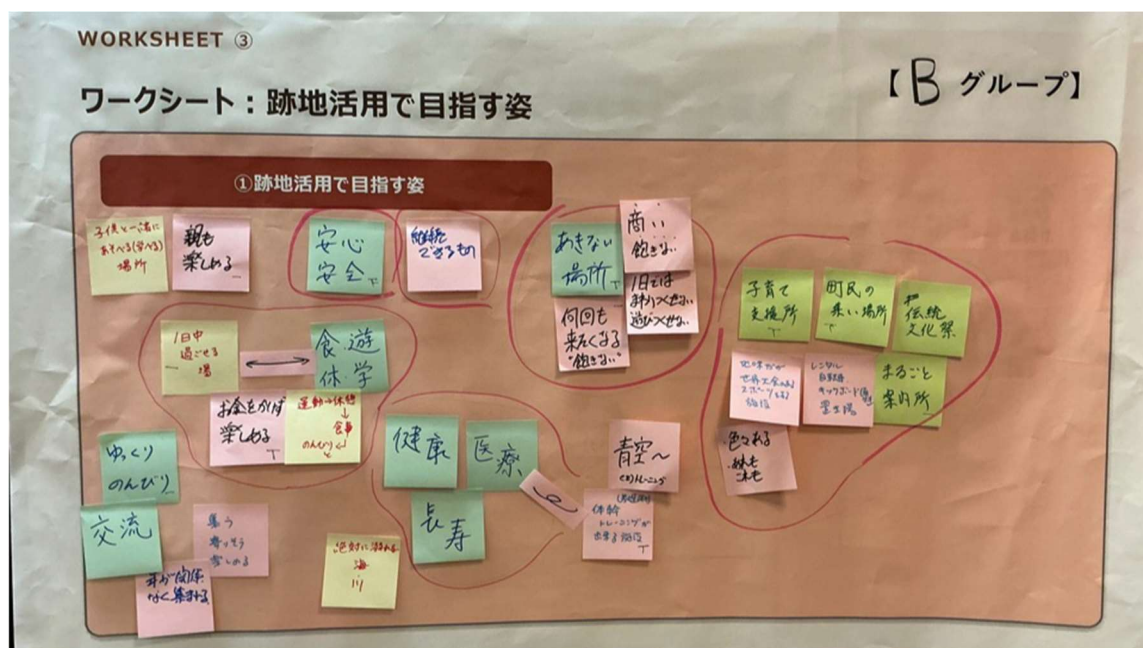
(1) A グループ

【要旨】「好きなことができる」「居場所ができる」「みんながつながれる」「ふらっとひとりでもみんなでも」等の意見が挙がりました。



(2) B グループ

【要旨】「安心安全」「継続できるもの」「飽きない（商い）の場所（何回も来たくなる）」等の意見が挙がりました。



(3) Cグループ

【要旨】「人が集う場所」「自分のしたいを支援される場」「地元の人や移住者が混ざれる場所」等の意見が挙がりました。



(4) D グループ

【要旨】「ぶらっと網野」「目的がなくても行ける」「誰かが居る」「網野食堂」等の意見が挙がりました。

